



特集 **出前講師は**
今日も市内を東奔西走!!

ごみの分別方法や回収された資源物のリサイクルについて、皆さんはどこまで理解していますか。自分では知っていると思っても、人に教えようとすると知識が曖昧だったり、細かいところが理解できていなかったりすることに気づくことがよくあります。そんなときの強い味方が「出前講師」です。リサイクル組合からリサイクルのプロが出向き、わかりやすく丁寧な講義をしています。



出前講師は 今日も市内を東奔西走!!

一本の電話から始まった
無料のリサイクル教室

どこにでも講師が出向き
リサイクル教室を開く

読者の皆さんは「出前講師」という言葉を知っていますか。出前講師は、リサイクル組合が社会貢献活動のひとつとして取り組んでいる無料のリサイクル教室です。横浜市のごみの分別方法や回収された資源物がどのようにリサイクルされているのかなど、リサイクルのプロである組合員が講師となり、わかりやすく講演するものです。

読者の皆さんにもぜひ、この出前講師を活用していただきたいと思いますので、もう少し詳しく説明します。

出前講師とは、名前のとおり、申し込んでいただいた主催者が行う集会に組合員を講師として派遣するものです。例えば、小学校の環境教育のひとつとして、子どもたちの学習の一助となるようなリサイクルの講演をしたり、自治会・町内会の皆さんに向けて、分別の知識の再確認や日頃の疑問解消を目的に講演を行ったりしています。他にも、地域や市民団

体によるイベントなどでも、呼んでいただければ出向いて講演します。

リサイクル組合が講師を派遣するのは無料ですが、受講者を集めたり、会場の準備などは主催者をお願いしています。リサイクル組合が行うのは、あくまでも講師を派遣するだけとなります。だから「出前講師」という名称なのです。

講義の時間は、学校で行う場合、授業時間に合わせて40分（1コマ）か80分（2コマ）。自治会や町内会で行う場合はほとんどが60分です。ただし、講義の時間や内容は、事前に相談していただければ変更することができます。

雑誌に掲載した記事を
そのまま語ってほしい

リサイクル組合が出前講師を始めたのは2002年のことです。それは1本の電話がきっかけでした。ある日、小学校の先生からリサイクル組合の事務局に次のような電話がかかってきました。

「月刊リサイクルデザインの記事に書かれている分別とリサイクルの大切さに

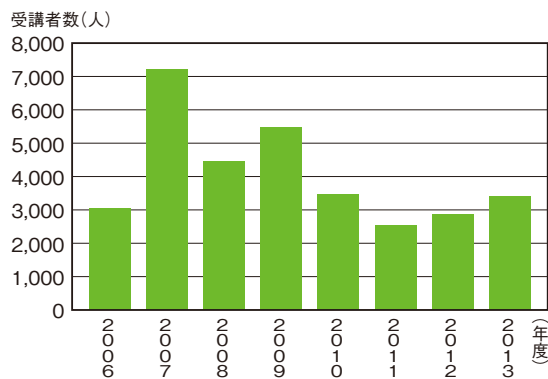
講演を主催するのではなく 講師を派遣するから「出前講師」

ついて、子どもたちの前でわかりやすく話してもらうことはできないでしょうか」

この時、電話を受けたのは企画室の戸川でした。これまでも横浜市や区役所からの依頼で、リサイクル組合の代表として理事長が講演を行うことはありましたが、小学校で子どもたちにリサイクルの話をすることはありませんでした。前例がなく、適任者もすぐに思い浮かびませ

出前講師受講者数

制作：リサイクル組合



ん。断るのは簡単です。しかし、何かひらめくものがあつた戸川は、すぐに若手組合員(現副理事長)の栗原に相談しました。実は栗原が小学校の教員免許を持っていることを以前に聞いていたのです。すぐに2人は対応策を考え始めました。

当時、リサイクル組合はちょうど「環境絵日記」の事業に本格的に取り組み始めたところでした。2000年にスタートした「環境絵日記」は、徐々に参加者が増え、絵日記の募集活動も活発化し、表彰と発表のイベントも次第に規模が大きくなっていました。リサイクル組合が取り組む社会貢献活動として「環境絵日記」は、順調に定着してきていたのです。横浜市内の小学校をまわって「環境絵日記」について説明し、応募のお願いに歩いていたメンバーのひとりが戸川でした。そのため戸川は、子どもたちにリサイクルの話をすることも組合の社会貢献活動として事業化できるのではないかと思いついたのです。

栗原と戸川はふたりで「子ども向けリサイクル教室」をどうやって実施する

かを考えました。名称はすぐに決まりました。リサイクルの授業を行う講師を小学校に派遣するところから「出前講師」と呼ぶことにしました。栗原は、40分の授業でごみの分別と資源物のリサイクルについて、小学生に何をどのように話し、紹介すればいいのか、講演マニュアルづくりに着手。戸川はその講演内容の概要を元に小学校に配布する「出前講師」の紹介チラシの制作に取りかかりました。

こうして2002年11月25日、最初の出前講師が、緑園西小学校の子どもたちの前で行われました。首尾よく講演を終えたふたりは、さらにこの出前講師を広めるために積極的に活動し、2003年3月末までに15回の講演を行いました。この実績を元に出前講師は、2003年度から正式にリサイクル組合の社会貢献活動として取り組まれることになったのです。

12 年間で約**400**回実施し
3 万人以上が講演を受講

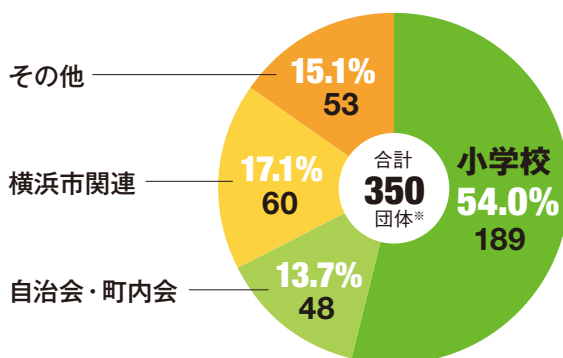
2003年から本格的に活動を始めた出前講師は、今までに400回以上行われ、受講者は約3万3000人にものぼります。過去8年間の実績を見てみると、平均して1年間に約40回実施され、約4000人の方たちに受

講していただいています。組合から派遣する講師の数は、一番多い時で10人ほどいましたが、現在はほとんどの場合、3人の講師が交代で担当しています。

出前講師を依頼してくれた団体は、小学校が約半数の54・0%を占めています。それ以外では、横浜市や区役所が主催するイベントでの講演が17・1%、自治会・町内会での講演が13・7%となっています。その他は、地域のお祭りや市民団体が主催するイベントなどでの講演です。データを見ると、自治会・町内会の皆さんからの依頼が少ないのがわかります。機会があればぜひ、お声をかけていただければと思います。

出前講師受講団体の内訳

制作：リサイクル組合



※2005～2013年に受講した団体



大勢の前に立つ緊張と 教える喜びの先にあるもの

作り込んだ講演内容に 飽きない工夫を盛り込む

出前講師の講演内容は、主催者の目的によって、時間や内容をアレンジすることが出来ます。ほとんどの場合、60分から80分で行うことが多いのですが、その基本的な内容をご紹介します。

講演は3つのパートで構成されています。最初は「どうして分別しないとリサイクルできないの?」というテーマで、古紙や缶などを種類別に分別しなければいけない理由を考えます。紙や缶のリサイクルがどのような工程で行われるのか、それが何に生まれ変わるのかを説明します。それによって、分別する理由が判明し、分別の大切さが自然と理解できます。

次は「3R※の地球にやさしい順番。リサイクルは何番目?」がテーマです。3Rの内容とその意味を吟味し、3Rを実践するときには順番があることを紹介します。びんや古着のリサイクルの実例を紹介し、どうしたら環境への負荷を低減できるかを考えながら、3Rの優先順

位を理解していきます。

最後は「どうして3Rをしなければならないの?」という、リサイクルの意義について考えます。ごみが減ればそれでよいのではなく、リサイクルという地球の環境を守るための取り組みを行うこと、目的、方法、そしてその結果がどうなっているのかを紹介し、3Rを実践することの大切さを実感していただきます。

講演は、以上の内容を盛り込みながら、スライドやビデオ映像を見たり、実際に会場で資源物の分別を体験してもらったりなど、工夫を凝らしたものになっています。また、担当する講師によって、会場を沸かせる得意な持ちネタもあり、笑ったり、得心したりと、楽しい時間を過ごしていただけることでしょう。

講演中のハプニングは 講経験を重ねて乗り越える

講師たちは、講演マニュアルを何度も熟読し、最新の情報を集め、さらに自分で疑問点を調べたりして、日々講演内容の研鑽につとめています。しかし、本

※3Rとは①リデュース (Reduce・発生抑制)、②リユース (Reuse・再使用)、③リサイクル (Recycle・再資源化) の3つの英語の頭文字を表したものです。

業はリサイクル業者であって、プロの講師ではありません。トラックの運転や資源物の回収は得意でも、人前で話すことはあまりうまくなかったり、得意ではない人もいます。皆さんの前に立つた際に、緊張し、汗を流しながら講演に臨んでいるのです。それでも出前講師を何度も経験するうちに、話術や話の進め方が少しずつ上達し、突然起こるハプニングにもどうにかうまく対処できるようになりました。

毎回、冷や汗をかきながら熱弁をふるう

ここで、講師たちがこれまでの講演中に体験したエピソードをいくつかご紹介しましょう。

これまでの体験で、どの講師も口を揃えて「あの時は困った!」と言うのは、会場に着くまでどんな方たちが受講するのか、あらかじめわからない時だそうです。分別やリサイクルの知識は人によってそれぞれ違います。それでも、どんな集まりなのかかわかれば、ある程度の予測ができます。ところが、子どもなのか、大人なのかさえもわからないのでは、事前に丁寧な準備をすることもできず、会場に到着してからの対応力で乗り切ることがありません。そのため、とても緊張したり、慌てたりすることが多く、何カ大

きな失敗をしてしまうのは大抵こんな時なのです。

例えば、まだ出前講師を始めたばかりで、講演は事前に準備してきた内容を話すので精一杯だった頃のエピソード。小学校で行う出前講師でしたが、到着してみると、講演するのではなく、子どもたちがエコの取り組みを発表して、それについて講師が寸評を行うというものだったのです。講師は、子どもたちが次々と発表する内容を全部、必死にメモにとりました。しかし、その内容の6割以上がエコクッキングの取り組みだったのです。ほとんど料理をした経験がない講師は、何とコメントしたらよいか、頭が真っ白になってしまったそうです。今なら、エコクッキングからリサイクルの話題にうまくつなげる話術が身についていますが、当時はただオロオロするばかりでした。現在もその小学校のある地域に行くと、その時のことを思い出して心が痛むのだそうです。

ほかにも、15分の講演を依頼されて会場に行つたところ、時間が余っているので45分の講演をしてほしいとお願いされたことや、紙すき体験の教室に講演に行つて、突然「紙すきの話をしてください」と話を振られて大慌てしたこともありました。講演の内容をあらかじめ知っている司会者が、講師がこれから話す内

容を先に話してしまうということも少なくありません。「どうしよう!」と内心で焦る事態は数多くあります。しかし、どんなピンチの時でも出前講師は、リサイクルのプロとして、心の動揺と冷や汗を隠しながら、一生懸命に資源物の分別が大切なことに熱弁をふるうのです。

リサイクル組合が出前講師を重要だと考えている理由

講師たちによると、講演中に話している内容について理解が深まった時に、受講者の皆さんの顔つきがパツと変わるのがわかるそうです。それはきつと「なるほど!」とか「そういうことか!」と講師の説明が腑に落ちた瞬間なのだと思います。会場全体が明るくなったように感じる、その一瞬を体験することが講師の喜びであり、醍醐味なのです。

出前講師を始めるきっかけは、月刊リサイクルデザインの記事の内容を子どもたちに向けて語る、いわば雑誌のライブ版ともいうべきものでした。リサイクル組合は、現在も月刊リサイクルデザインを通じて、資源物のリサイクルや分別の大切さを訴え、地球環境や資源循環に少しでもたくさんの方の関心を持っていたように活動を続けています。そして、この活動をさらに押し進めるため、冊子を読んでいない住民の皆さんや子どもた

ちに向けて、組合員が講師となって自治会・町内会や小学校、イベント会場に向いて講演を行う「出前講師」に力を入れているのです。

この出前講師は、リサイクルと分別の知識を深めてもらうための活動というわけでもありません。リサイクル業者の日頃の業務では、あまり親しく接することのできない住民の皆さんや子どもたちと交流を深める貴重な機会にもなっているのです。出前講師を受講していただいた皆さんに、リサイクル業者のことを少しでも知っていただき、親しみを感じていただけたらありがたいと願っているのです。

一方で、講演を通じて直接、顔をあわせて会話することで、普段聞けないさまざまな話や意見を伺うこともできます。その時に、皆さんの話から教えられたり、問題点や課題に気づかされたりすること、もたくさんあります。

出前講師は、いくら事前に準備を整えて講演に臨んでも、毎回緊張とドキドキの連続です。しかし、講師のひとつで皆さんの顔が明るくなった時の充実感は、それまでの辛さを一瞬で溶かしてくれまします。皆さんの前に立ち、教える喜びに浸りながら、リサイクル業者としての毎日の仕事に対する誇りと責任感が深まるのを感じているのです。

始末の一品

Rd



今月の食材【茶がら】

お茶を入れたあとに残る茶がらも食材になります。
特に新茶の茶がらにはたくさんの栄養素が残っており、
香りもよいので工夫次第でいろいろな料理に活用できます。

緑茶がらの焼き飯



材料(2人分)

- 緑茶の茶がら……小さじ2
- 雑穀米……1合
- しば漬け……適量
- 塩・胡椒・しょうゆ……少々
- サラダ油……少々
- 白ごま……小さじ1

- ① 熱したフライパンにサラダ油を入れ、軽く水気を切った茶がらを弱火で炒めて水分を飛ばす(焦げやすいので気をつける)。
- ② ①に温かい雑穀米と粗く刻んだしば漬けを加えて炒める。軽く塩・胡椒したあと、しょうゆで風味をつける。
- ③ 器に盛りつけてから白ごまをふる。

煎茶がらのケーキ



材料(3合炊き炊飯器で1個分)

- ホットケーキミックス……カップ1
- 卵……1個
- 無調整の豆乳……カップ $\frac{1}{2}$
- 市販の煮黒豆……大さじ2〜3程度
- 煎茶がら……1杯分(約8g)
- すり黒ごま、はちみつ……各大さじ1

- ① 炊飯器釜にホットケーキミックス↓黒ごま↓はちみつの順に入れ、さっくり混ぜる。
- ② 卵はときほぐし、豆乳を加えてよく混ぜる。
- ③ ①に②を入れてさっくり混ぜたら、茶がらを入れてさらに軽く混ぜる。上から黒豆を散らし、蓋をして炊飯ボタンを押す。
- ④ 保温に切り替わったら蓋を開けて中身をひっくり返し、もう一度炊飯ボタンを押す。
- ⑤ 再度保温に切り替わったらでき上がり。



RD NEWS

2014年5月号 通巻236号
2014年4月25日発行



横浜型地域貢献企業最上位認定取得

May. 2014 No.236

RECYCLE DESIGN

リサイクル組合が環境絵日記のワークショップを開催

リサイクル組合は、3月15日(土)、リサイクルポータル山ノ内において「環境絵日記の取組み」と「単身世帯のごみの分別の不徹底」についてのワークショップを開催しました。

環境絵日記の歴代受賞者5名と全国環境絵日記実行委員会や環境絵日記地域事務局の方々など計20名が参加し、古紙・古布の海外輸出施設の見学会を体験したあと、2部構成のワークショップを行いました。

第1部では、「環境絵日記 ビフォーアフター」と題し、歴代受賞者に環境絵日記を描いたことで変



わったことをヒアリング。「環境絵日記を描くときは親子で話し合っただけでいい」「毎年夏休みになると何を描くか考え、色々なことに気付くようになった」などの声が集まり、環境について家族で話すべききっかけとなり、子どもの気づきを学校や地域でシェアすることにつながっていることがわかりました。第2部は、「単身世帯のごみの分別の不徹底を改善するために「なぜ分別をしなければならないの?」という課題について意見をいただきました。

最後にリサイクル組合の中野聡恭相談役が挨拶し、「今回のワークショップで環境絵日記の歴代受賞者の方たちに再会できたことが何よりもうれしかった。コミュニティの崩壊防止のために業界の組合を作り、活動の一環として始めた環境絵日記で共生できていることをとても嬉しく思っている」と総括しました。

横浜市集団回収推進部会が自走事故防止の歯止めを配布



回収へと位置づけが変わりました。そこで横浜市集団回収推進部会は、市民の皆さまから信頼される資源集団回収事業を目指す

ため、回収業者の事故防止・撲滅に向けた取り組みを行うことにしました。その第二弾が「自走事故防止に向けた歯止めの無料配布」です。

今回の呼びかけに対し、横浜市内の資源集団回収登録業者のうち77社から希望が集まり、合計493個の歯止めを無料配布しました。併せて、自走事故防止の啓発ポスターを作成し、歯止めと一緒に配布。回収に携わる従業員への啓発に役立てています。

今後横浜市集団回収推進部会は、「安心・安全な資源集団回収」の推進に取り組んでいく予定です。

リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからもご覧いただけます

<http://www.recycledesign.or.jp/rd/>

スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。



大人気! りくみのトレペ (シングル)

再生紙100%のトイレトペーパー。芯なしタイプで、1ロール130mと通常の2倍の長さがあり、とてもお得です。

1パック6ロール入り・8パック1ケース
ご注文は1ケース(8パック) 価格は **3,270円**



お問い合わせ 横浜市資源リサイクル事業協同組合 事務局 山中 TEL: 045-444-2531 E-mail: mail@recycledesign.or.jp